平成二十五年 山王祭

宵宮祭　五月二十五日（土）午後六時
例大祭　五月二十六日（日）午前十時

統前町　大川町

頭人役　武藤　富夫氏

祭典委員長　狩野　紀男氏

協力町　上表町　中表町　十條団地町　下表町

祭典実行委員長　伊藤富美雄氏

奉納余興

日時／五月二十五日（土）午後五時五〇分～八時一〇分
二十六日（日）午後二時～四時五〇分
場所／秋田公立美術大学　サークルプラザ内（特設舞台）
出演者／25日　岩本公水
26日　日新保育園・二代目浅野梅若社中
両日　和太鼓いぶき・メローディオン
三味線演歌　三浦龍・新日本舞踊　希洲会

五月二十五日 御差鉾ご巡幸順路

五月二十六日 神輿ご神幸順路

◆ 5月25日（土）御差鉾 御巡幸順路と予定時間

【往路：赤線】■■➡
18:00神事開始－18:50神社出発－18:58参画屋－19:05森川クリニック
19:10萬八そば－19:15御蔵橋－19:20港中央薬局－19:25御神宿
【復路：緑線】■■➡
20:20御神宿 出発－20:27大川端橋－20:32大塚商店
20:35もとまち歯科－20:40忠専寺－20:50参画屋－21:00神社還御

◆ 5月26日（日）例大祭 御巡幸順路と予定時間

【往路：赤線】■■➡
10:00神事開始－10:50神社出発－10:58参画屋－11:05森川クリニック
11:10秋田晴着－11:25秋田晴発－11:32南波精肉店－11:40萬八そば
11:45御蔵橋－11:50だいせん前－11:55大島商店－12:00御神宿
【復路：緑線】■■➡
13:00御神宿 出発－13:05美大正門－13:10図書館－13:17新屋桜橋
13:22新屋幼稚園－13:30扇のくら－13:40新屋駅前－13:45豊岩踏切
14:00一本木着－14:30一本木発－14:40豊岩踏切－15:00神社還御

平成25年
発行　日吉神社
住所　秋田市新屋日吉町10-67
電話　018-828-3033
http://hiyoshi-jinja.jp/

先人が築き上げた文化・伝統そして想いを継承しつつ、お神輿を担いで頂ける方を募集いたします。
■募集要項
心身ともに健全な志のある男女
（本神輿）（女神輿）（子供神輿）
■経験は問わいたします。
■小・中・高校生は学校を通じ募集します。
お問合せ・お申込み
■新興連（しんよれん）佐藤琢磨（たくま）まで
■携帯／090-4881-7433
締切は5月17日（金）です。
お神輿 担ぎ手募集
平成二十五年 五月二十六日（日）
日吉神社のお神輿を担ぐ会 しんよれん
新興連

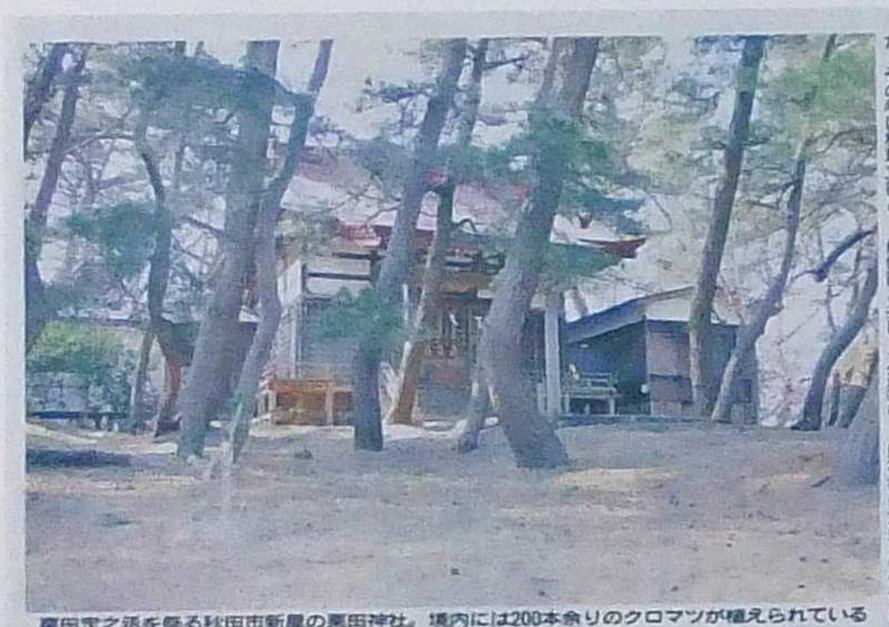
栗田定之丞大人（うし）の事績を広める

栗田定之丞大人（うし）は、新屋のみならず、秋田県の沿岸一帯を救ってくれた偉人です。
我が新屋の先人は、感謝の意を示すため、大人（うし）の亡くなった翌年には祠を建てています。
秋田魁新報では、この度「神となった先人たち」と銘打って、地域の為、住民の為に努力した人をとりあげる事になったそうです。
その第一号として栗田さんの記事が去る平成25年4月7日に掲載されましたので、記念に、御許可をいただいて転載致します。

神となった先人たち 県内ゆかりの地探訪 1

公益の精神、今に息づく

栗田 定之丞


栗田定之丞を祭る秋田市新屋の栗田神社。境内には200本余りのクロマツが植えられている

「栗田さんが砂防林を整備してくれたおかげで、自分たちがこうやって新屋で暮らせている」。秋田藩士・栗田定之丞（1797～1862年）について、秋田市新屋に住む佐々木峻夫さん（88）がこう語った。荒れた土地を再生し、人々の生活を豊かにしてくれた定之丞を慕う気持ちが、彼を神様としてあがめさせたのだろう。新屋には栗田神社が鎮座する。

新屋地区はかつて秋から春にかけて吹く季節風による飛砂で沿岸の田畑や家屋が埋もれ、人々の暮らしが危機的状況に陥ることもたびたびだったという。

秋田市史や新屋郷土史などによると、定之丞は寛政8（1796）年に新屋村割帳見習役となり、飛砂の猛威を自らは験した。その年に林政立役となり、郡方御物頭と砂留方の兼務も命じられ、砂防林整備に乗り出した。定之丞は約30年かけ、八森村（八峰町八森）から飯田村（秋田市飯田）までの海岸にクロマツなど約800万本を植林した。

●――●

彼の偉業をたたえ、後世に伝えていこうと安政4（1857）年に建立されたのが同市新屋の栗田神社だ。定之丞はその翌年、1867年に既代市でも神様として祭られた。

新屋の栗田神社は、9千平方メートル余りの敷地に2

栗田神社境内には栗田の功績をたたえる遺愛碑が立つ

12本のクロマツが生え、定之丞の功績を刻んだ高さ約2メートルの遺愛碑が立つ。拝殿には定之丞の肖像画と共に、「公益」の文字が書かれた額が掲げられていた。地元農民らの協力が得られない中でも自らの信念を貫き、「地域のために」と植林事業にまい進した定之丞の姿勢を象徴する言葉だ。

同神社では現在、緑町、北新町、昭町の周辺3町内会の有志約30人でつくる神社敬神会が、境内の清掃や草刈りなどの管理に当たっている。同会は毎年6月1日に行われる同神社例大祭の宵宮での

拝殿内には公益と書かれた額や栗田の肖像画が飾られている

神輿（みこし）の渡御（とぎょ）や、獅子（しし）舞（まい）、屋台（やたい）の曳（ひ）き回（まわ）しなどを行（おこな）う。

会員も高齢、境内にスチールをつくり、地元の民謡歌手によるショーなど手作りのイベントを長年続けている。

佐々木さんは約50年間、活動に携わっており、現在は会長を務める。「地域のために半生を捧げた栗田さんは『公人』のかがみであり、われわれの誇り。会の活動をおろそかにはできない」と力を込める。

植林の成功は防風、防砂の効果だけでなく、燃料用の薪が取れるようになった。栗田神社の責任役員・斎藤政雄さん（79）は小学校時代に松葉ぼうきや薪を学校に持った。切った松の一部はそこに学校で使ったという。

●――●

秋田南バイパスの工事が行われている秋田市新屋の国道7号沿い。地元住民らでつくるNPOは2011年から、植栽されて間もない砂防林を再生させようと松やエノキなどの植林を進めている。植林目標面積は約3ヘクタール。1年1ヘクタールずつ植栽したとしても3年かかる息の長い事業だ。

同NPOの活動にも関わる斎藤さんは「定之丞が整備した松林を荒廃したままにするのは申し訳ないという思いがある。この活動が、定之丞の偉業を多くの地元の人たちに知ってもらう機会になれば」と話している。

（佐藤光太郎）

県内には神様として祭られている先人たちが多くいる。ゆかりの地を記者が訪ね、功績を振り返るとともに、地元住民の思いや、顕彰の取り組みなども紹介する。

定之丞の子孫・栗田忠夫さん

「美しい松林、維持を」

秋田市千秋明徳町に住む栗田忠夫さん（88）は、定之丞のひ孫・恒吉（故人）の次男。本人に住む子孫として、同市新屋の栗田神社の行事に参加してきた。「一つのことに熱心に取り組んだ定之丞が先祖であることを誇りに思っている」

忠夫さんが定之丞を意識し始めたのは小学生のころ。通っていた朗徳小の体育館に佐竹義隆、平田篤胤と並び肖像画が飾られていたことや、修身の授業で定之丞について学んだことがきっかけだった。また、成人してからは名字から定之丞の子孫かと聞かれることがあり、人間関係が深くなることもあったという。

恒吉の兄、栗田茂雄（故人）は郷土史家で定之丞について研究した。忠夫さんは茂雄が丹念に調べてまとめた資料を大切に保管し、たまに読み返して定之丞の業績を振り返る。

新屋など各地で植林活動が続くことにも注目し続けており、2007年には当ときょうだい4人が50万円を秋田、秋田経済同友会の「松枯れ再生募金」に贈った。「定之丞が特に植林に力を入れた新屋市の海岸が松枯れの被害を受けているのは残念。強い松林を何とか維持してほしい」と願う。

伊勢神宮 第62回式年遷宮
「遷御の儀」
内宮十月二日、外宮十月五日

かねて全国の神社や、関係者による奉賛事業が進められて来ました伊勢神宮の「第六十二回式年遷宮」は、いよいよ今年秋の遷御の儀で最高潮に達します。

約十年の時間をかけて、御用材を伐採する山口祭、御杣始祭から始められた一連の行事が、漸く完了する事になります。

「遷御の儀」は、二十年間お住まいいただいた古い御社殿から、新築になった新しい御社殿にお引っ越しいただくための行事です。新しい御社殿に遷られた大神様は、御神威が弥増して、日本の国のお守りに、発展にお力を発揮していただけるという信仰に基づいて行われる行事です。

鬱蒼(うっそう)とした杉木立の浄闇の中を松明(たいまつ)に照らされ、神職によって遷される様子は、「厳か(おごそか)」という言葉そのままです。

今回の遷御の儀は、天皇陛下の御指示の下、内宮は十月二日夜、外宮は十月五日夜に、それぞれ行われます。

その様子は恐らく新聞、テレビなどで報道されると思いますが、日本人も良く知らない、真の日本の姿の一つが垣間見られるものと思いますので、是非ご注目下さい。

第62回 伊勢神宮 御遷宮記念旅行のご案内

いよいよ平成25年10月、伊勢神宮では、新築成った御正殿への遷御の儀が執り行われます。

皆様のご協力をいただき、伊勢神宮へのご奉賛を続けておるところではありますが、今回の御遷宮では、26年3月までの間、外宮にて、新、旧のご正殿を拝観することができる事になっております。

当神社ではこの機会に皆様に見学いただくよう、旅行を企画いたしました。また合わせて、当神社のご本社日吉大社と、高野山、多賀大社など著名社寺を見学致します。

この機会に是非ご参加いただきますようご案内申しあげます。

記

出発日 平成26年3月3日（月）～3月6日（木）3泊4日

旅　程 1日目（9：50）秋田空港－伊丹空港－高野山 泊
2日目－伊勢神宮　外宮　内宮－鳥羽　泊
3日目－二見浦－三井寺－多賀大社　雄琴温泉 泊
4日目－日吉大社－伊丹空港－秋田空港（16：35）

費　用 130,000円

参加人数 40名（予定人数に達し次第締め切ります）

申込締切 平成25年6月末日

東北の復興を願って 日吉の杜あらや音楽祭開催

平成二十三年三月十一日に起きた東日本大地震の被害は、被災した東北の三県や茨城県だけではなく、我が秋田県にも、著しい観光客の減少や、経済活動の低下などという間接的な影響をもたらし、何となく沈んだ気持ちになりがちな日々でした。

神社の杜を使った、元気になるイベントができないものかと考えた同志で実行が決まったのは、平成二十四年二月の事でした。

秋が深まり、寒いのじゃないか、天気模様はどうだろうと心配は多々ありましたが、決行に漕ぎつけた十月二十日は、午前中非常に暖かく、新屋高校、秋田西中学校、日新小学校の吹奏楽は、楽しく演奏して貰う事ができました。アマチュアジャズバンドのKDIの演奏から、目玉であった「浜田均スーパーカルテット」の演奏の間、雨に見舞われましたが、再び雨も止んで、素晴らしいプロのジャズを、神社の杜の会場で楽しむ事ができました。

また美術工芸短大（現秋田公立美術大）の小牟禮導人先生の、復興を願うガラスのオブジェ「テンション（きずな）」を社殿内に展示し、ライトアップされたテンションとジャズ演奏は格別なものでした。

当日、境内の仮設テントに出店いただいた方々、会場の設営を手伝ってくれた美術工芸短大と、秋田商業高校の皆さん、多くの方々の御協力により所期の目的を達し得たのではないかと考えております。被災地の方々同様、秋田にも元気な日々が早くやってきてくれるようお祈り致します。

平成二十四年度 地元自慢 標語コンクール受賞作品

（学年は昨年時点のものです）

金賞

■四年生
あせだくで　五時のただいま　のどからから　谷藤 伶哉さん
むぎ茶はやっぱり　新屋のわき水

■五年生
かしまさん　つな引くその手で受けつごう　藤島 理鈴さん
家族　地域で　深める絆

■六年生
ももさだの　美短に集う　芸術家　高島 海斗さん

■西中学校　三年
帰り道「お帰り」の声　うれしくて　村上 真惟さん
笑顔で「ただいま」　地域の輪

平成25年 年祝祭

平成二十五年四月二十八日、第八十八回目となる新屋町厄年祝祭が、88才6名、77才12名、61才55名、42才21名、33才1名、計95名の参加で、盛大に執り行われました。

今年の四十二才から、勝平中学校ができて、秋田西中と二つに別れた学年となるため、心配の声も上がっていましたが、会長を務める相原章さんをはじめ実行委員の方々の御努力により、無事執り行う事ができました。

この行事は、42才の人達が音頭をとって節目の年の方に声かけし、幹事役となる会です。

◆役員の皆さんの御紹介（敬称略）

会　長　相原　章
副　会　長　大川　和晃・岡部　茂紀
幹　事　井上　雅史・鈴木　亮
荻原秀一郎・庄司　教昭
福田　洋・渡辺　裕之
名誉会長　中野　鋼一
名誉副会長　石黒　俊彦・児玉　花子

町内対抗 あらやばやしコンクール

今年も、二十五日午後四時より、神社境内神楽堂にて"あらやばやしコンクール"を行います。奮ってご参加下さい。

◎昨年までの成績
新屋ばやしコンクール歴代入賞チーム

	1位	2位	3位
平成24年	沖田町A	比内町A	日の出町
23年	沖田町A	比内町A	日の出町A
22年	沖田町A	日の出町	比内町
21年	日の出町B	沖田町A	下表町
20年	日の出町	比内町B	下表町A
19年	日の出町	下表町	田尻沢町
18年	日の出町	下表町	比内町